

環境保健センター試験研究計画書

番号	R4-5	課題名	ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究					
期間	R4～6年度	担当部課室	保健科学部 ウイルス科					
課題設定の背景	<p><b>1 政策上の位置付け</b> 本課題は、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」及び「岡山県感染症予防計画」に掲げる「感染症対策」を、科学的知見に基づいて推進することに資するものである。</p> <p><b>2 県民や社会のニーズの状況</b> 近年続発している新興感染症はもとより、様々な行政検査に適切に対応するためには、限られたリソースの効率的な運用が必要である。また、感染症の発生予防やまん延防止のため、環境水、媒介動物等を対象とした調査による地域全体の病原体分布の解明が望まれている。</p> <p><b>3 県が直接取り組む理由</b> 当センターは、危険性の高いウイルス・リケッチアを扱うことができる県下唯一の検査機関であり、健康危機管理上で必要な行政検査とも関連する。</p> <p><b>4 事業の緊要性</b> 行政検査の効率化は、質の高い流行疫学解析のために必要である。下水サーベイランスは、既知ウイルスはもとより、新興ウイルスの発生・県内侵入の監視に必要である。致死率の高い病原体を保有するマダニの分布状況の継続的な監視は、予防啓発に必要である。</p>							
	試験研究の概要	<p><b>1 目標</b> 行政検査の効率化により、感染症の原因ウイルスの特定効率を向上する。また、地域全体の病原体の分布を把握・解析し、感染症の流行拡大防止や発生防止の一助とする。</p> <p><b>2 実施内容</b> ・患者検体を対象としたウイルス行政検査を効率化し、検査スキームを構築する。 ・下水サーベイランスにより、ウイルスの地域流行を正確に把握する。 ・県南地域を対象にした定点調査により、病原体保有マダニの分布を把握する。</p> <p><b>3 技術の新規性・独創性</b> 下水処理場への流入水によるウイルスの詳細な流行疫学解析は先行的な研究である。また、県内でマダニの生息調査技術及び保有病原体の解析技術を有するのは当センターのみである。</p> <p><b>4 実現可能性・難易度</b> 実現可能性：中 難易度：高</p> <p><b>5 実施体制</b> 1.0名</p>						
		成果の活用・発展性	<p><b>1 活用可能性</b> ・行政検査の効率化と検査スキームの構築により、質の高い流行疫学解析が可能となる。 ・患者発生に先んじて地域に侵淫するウイルス・リケッチアを特定することで、従来よりも早期の感染症予防対策の啓発が可能となる。</p> <p><b>2 普及方策</b> ・年報掲載、学会発表等 ・確立した手法の県内外検査機関への普及、研修指導 ・県、市町村等の行政関係機関への情報提供</p> <p><b>3 成果の発展可能性</b> ・環境水サーベイランスを従来の患者サーベイランスと組み合わせ、より詳細なウイルスの流行を把握することで、迅速で的確な感染症予防対策が可能となる。 ・マダニの生息状況の把握に加え、将来的には野生動物の生息動態を勘案した感染リスクマップを作成することで、マダニ媒介感染症の効果的な予防啓発が可能となる。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	R4	R5	R6
行政検査の効率化								
下水サーベイランス								
マダニ調査								
計画事業費		555		555	555	1,665		
一般財源		555		555	555	1,665		
外部資金等		0		0	0	0		
人件費(常勤職員)		8,000	8,000	8,000	24,000			
総事業コスト		8,555	8,555	8,555	25,665			